

# カトリック

# 新潟教区報



## 150年の歩み

新潟教区司教 パウロ 成井 大介



明治9年（1876年）、酒田出身の阿曽吉常氏がドルワール神父から新潟で洗礼を受けました。鎖国体制が終焉を迎えた、パリ外国宣教会の宣教師たちが来日し、いわゆる「再宣教」が始まってから、現在の新潟教区の地域で最初に行われた洗礼でした。それから今年で150年になります。

### 当時の社会

明治4年（1871年）に、新潟最初の宣教師、エヴァラル神父が派遣されました。当時は、外国人、それもキリスト教の宣教師に家を貸してくれるような人を見つけるのは非常に難しく、最初に借りた家は半年立ち退かなければならなかつたそうです。宣教師に対する反感が強いです。エヴァラル神父はその約5年間の在任期間中、熱心に宣教に取り組み、地域の青年にフランス語を教えたり、活版印刷を紹介して新潟県最初の日刊新聞の発行に協力したりしたそうです。

明治8年（1875年）、エヴァラル神父の離任に伴い、ドルワール神



伝道士 大江雄松氏

### 信徒の活躍

当時、洗礼を受けてキリスト者になるということは、相当な覚悟を要することでした。洗礼を受けたことで様々な嫌がらせを受け、移住を余儀なくされることもあつたそうです。

そのような状況で洗礼を受けた人々は、困難にもくじけず、自ら信仰を守るだけでなく、家族や、場合に難しく、最初に借りた家は半年立ち退かなければならなかつたそうです。宣教師に対する反感が強いです。エヴァラル神父はその約5年間の在任期間中、熱心に宣教に取り組み、地域の青年にフランス語を教えたり、活版印刷を紹介して新潟県最初の日刊新聞の発行に協力したりしたそうです。

### 150年を経て

明治初期のキリスト者の生きざまは、今を生きる私たちに多くのことは、生きることであります。それが、自分自身の生き方を投げかけています。

まず、キリスト者として生きることで、自らの人生において何物にも代えがたい、絶対的に大切なことだということを改めて受け止めることだということです。当時洗礼を受けた人々は、立派な聖堂や、わかりやすいカテキズムや、美しい聖歌のCDや、ネットで配信される教皇メッセージなど何もなく、ただキリストの教えや宣教師をはじめとするキリスト者の生きざまに心を動かされたのだと思います。私たちも、キリストご自身、そして互いの生きざまを通して、キリスト者としての人生を大切にしていきたいと思いま

### 次に、宣教師も、伝道士をはじめとする信徒も、熱心に宣教に取り組んだということです。当時、キリスト者は社会の中で圧倒的に少なかつて、宣教師の手として主体的に行動しました。宣教師は非常に広い地域を徒歩で回らなければならず、一人でできることは限られています。そこで伝道士が、司祭が頻繁に行けない共同体に単身赴いて励ましたり、洗礼の勉強を施したりしました。

キリスト教への偏見にも負けず、自らの足で方々を巡り、福音の良き知らせを伝えて回った当時のキリスト者の宣教への熱意はものすごいものだったでしょう。また、たとえ故郷を捨てても洗礼を受けると決意した人々の、キリスト者として福音を生きる覚悟には心底驚かされました。

### 次に、宣教師も、伝道士をはじめとする信徒も、熱心に宣教に取り組んだということです。当時、キリスト者は社会の中で圧倒的に少なかつて、宣教師の手として主体的に行動しました。宣教師は非常に広い地域を徒歩で回らなければならず、一人でできることは限られています。そこで伝道士が、司祭が頻繁に行けない共同体に単身赴いて励ましたり、洗礼の勉強を施したりしました。

キリスト教への偏見にも負けず、自らの足で方々を巡り、福音の良き知らせを伝えて回った当時のキリスト者の宣教への熱意はものすごいものだったでしょう。また、たとえ故郷を捨てても洗礼を受けると決意した人々の、キリスト者として福音を生きる覚悟には心底驚かされました。

# 2025年新潟教区通常聖年閉幕ミサ

2025年12月28日(日)新潟教会主日ミサと併合して成井司教司式により閉幕ミサが行われました。教区内の他地区からや多国籍の信徒の参加も多く、交わりに満ちたミサとなりました。

また、この1年間を振り返ると巡礼指定教会である当教会に、個人やグループ、団体等、多くの信徒の方が訪問されていました。閉幕ミサにとらわれることなく巡礼が続けられるということは、交わりの大きな力になると感じています。

成井司教は説教において「聖年の振り返りと希望」および「シノドスの継続」という二つのテーマについて話されました。

まず、参加者全員に「この1年どのような希望を受けてきたか」と、沈黙の振り返りを求められ、教区100周年の記念十字架により1年かけて十字架リレーが行われたこと、それが希望のメッセージを伝えるシンボルであったこと。また、多くの教会共同体が指定教会に巡礼に行つたこと、10月に山形で教区信徒大会が行われたこと、教皇フランシスコの逝去と新教皇レオ十四世の選出などを顧みられた。

聖年の大勅書「希望は欺かない」を振り返られ、教皇フランシスコの言葉を引用され、この聖年を通して

「皆さんは、主イエスとの生き生きとした出会いを重ねてきましたか」と問われる。聖年はレビ記25章に書かれているヨヘルの年に基づく行事。この年には畠を休ませたり、売った土地が返却されたり、僕が解放されたり、負債が免除されたりする。つまり、この世界すべてのものが、神が造られた本来あるべき望ましい関係に立ち戻ろうという年です。主イエスを通して、人も被造物もすべてに対し良い関係をつくり発展していくのです。と説かれました。

また、教皇フランシスコの「聖年かけや「キリスト者の希望」の教えなどを引用され、希望が自分の努力によって手に入れることができるものではなく、神が一方的に注いでくださる愛に基づくものだからです。この愛は、どんなに私たちが神に背こうとも、止まることはないのです。と説かれ、今年の聖年のロゴには十字架の形をした船の錨が描かれています。これは「希望に錨を下ろそう」という呼びかけです。神の愛にしっかりと錨を下ろしている限り希望を見失うことはないのです。自分の能力や計画に錨を下ろすのではなく、神の愛に錨を下ろしている限

りどんな荒波にも恐れることはありません。この1年に自分たちの行った困難にある人のための奉仕を、心中で奉納し、今後も続けていく決意を新たにしましょう。と呼びかけられました。

最後にシノドスの継続について、2026年の終わりまでが各教区におけるシノドスの取り組み『ともに歩む教会となっていくための実践』で、2027年前半が各教区における評価集会、その後、国レベル、大陸レベルの評価が行われ、2028年の10月にバチカンで最終的な教会総会を行って終了となる。私たちは、シノドスの柱であり、新潟教区の宣教司牧方針の三つの柱でもある、交わり、宣教、参加を通して、世に対し希望の光をともしていきたい。と呼びかけられた。(編集部)

ひとりで悩まず  
わたしたちにご相談ください

**カトリック新潟教区  
セクシャル・ハラスメント相談窓口**

司祭・修道者による未成年者性虐待と  
セクシャル・ハラスメントについての  
窓口です

TEL 080-8912-8758

受付 毎週火曜日 13:00~14:00  
(除く祝祭日)



秋田地区

地

区

便

## 成井司教様公式訪問

本荘教会 角田 智



本荘教会にて

11月9日に前回から3年ぶりに成井司教様の本荘教会への公式訪問が行われました。ミサは新立神父様と共同司式で執り行されました。この日は、初代教会であるラテラノ教会の献堂を祝う日です。ミサ中の説教では、自分たちのためだけではなく地域のために祈ることが教会の本質であると教えていただきました。また、本荘教会の信徒は少人数であるものの、イエス様と使徒を合わせた数よりも多いことが伝えられました。このことから、私たちも少ない

人数でもできることがあると勇気づけられました。

ミサの後、司教様より前回の訪問から3年間における新潟教区の変化について、統計資料を用いてご説明いただきました。これらの数字は単なる変化に過ぎず、みんなが考える材料として示されたものです。新潟教区の範囲である新潟から秋田の各県の人口は減つており、日本全体の人口減少率よりも大きくなっています。私たちもその実感を抱いています。新潟教区の信者数も減つておらず、教会の統合も行われています。

このような状況を踏まえ司教様と信徒の意見交換を行いました。教会は



本荘教会の皆さん

り

過去2千年の間に変化してきており、社会の変化にもどう対応していくかを話し合いました。

司教様の公式訪問についてのお言葉は新潟教区のホームページにても掲載されておりますので、ぜひご覧ください。

者が教派を超えて共有できる「希望の光」をあらためて確認する招きとなりました。集会では、祭壇に光の象徴として6本のろうそくが灯されました。

今回の集会には、成井大介司教をはじめ、諸教会から多くの参加者が集いました。参加教会は、バブテスマ主の港キリスト教会、日本キリスト教団愛泉教会、聖公会聖パウロ教会、日本キリスト教改革派新潟教会、救世軍新潟小隊、そしてカトリック新潟・花園・青山・寺尾の各

### 下越地区 キリスト教一致祈祷集会 分断の世界を照らす 「一つの希望」

寺尾教会 末吉のり子

テーマ・「からだは一つ、靈は一つです。それは、あなたがたが一つの希望にあづかるようにと招かれていたのと同じです（エフェソ4・4）」

2026年1月18日（日）、カトリック寺尾教会にて「2026年キリスト教一致祈祷集会」が開催されました。

2026年的一致祈祷週間の資料草案は、世界最古のキリスト教国家の一つであるアルメニアのキリスト者たちによって準備されました。アルメニア使徒教会は、約2000年に及ぶ歴史の中で、幾多の迫害や紛争などの困難に直面しています。こうした背景から生まれた今年の祈りは、「光よりの光、光のための光」を主題としています。この祈りは、分断された世界において、キリスト

教会です。異なる伝統をもつ人々が共に祈るこの姿は、教皇フランシスコが推進し、レオ十四世に引き継がれた「シンодス（共に歩む道）」の精神を具体的に示すものとなりました。

説教を担当した寺尾教会の岡神父は、新潟におけるキリスト教会の存在は小さくかもしれないといとしつつ、「闇が深まるほど光は輝き出す」と語られました。そして、この小さな集いこそが、互いの違いを認め合い、尊敬し合うことのできる社



集会の様子

会への確かな証しになるのだと強調されました。このような時代において宗教が果たすべき役割は、絶対的な答えを押しつけることではなく、むしろ、どう生きるべきか迷う人々に寄り添い、共に歩む「道しるべ」となることです。それは、「自分は決して一人ではない」と感じられる土台を築くことにほかなりません。

集会後の茶話会では、教派を超えた和やかな交流が行われ、「また来年も共に祈ろう」という誓いのうちに散会となりました。この小さな祈りのうねりが、地域社会における平和と希望の源泉となることが期待されます。

このようないくつかの説明は、たすべき役割は、絶対的な答えを押しつけることではなく、むしろ、どう生きるべきか迷う人々に寄り添い、共に歩む「道しるべ」となることです。それは、「自分は決して一人ではない」と感じられる土台を築くことにほなりません。

2026年  
3月6日

## 「性虐待被害者のための祈りと償いの日」に向けて

今年の性虐待被害者のための祈りと償いの日（四旬節第二金曜日）は、3月6日です。新潟教区では毎年司教様の呼びかけに応えて取り組みを進めてまいりました。今年もこれまでの取り組みを継続していきます。2月上旬には各小教区、共同体に司教様のメッセージとともに今年の取り組みの呼びかけをお届けする予定です。

ここ数年取り組みの一つとしてグループでの分かち合いをお願いしてきました。昨年は教区内の小教区、共同体のうち3分の1ほどから分かち合いの報告をいただいております。少しずつその数は増えています。今回呼びかける分かち合いのテーマは「私たちの交わりの再確認」です。司教様の年頭司牧書簡で示された新潟教区の今年の年間目標「キリストにおける交わり」に沿ってテーマを設定させていただきました。ハラスメントは歪んだ交わりから生じると考えるからです。分かち合いのガイド等も準備して後ほど各小教区、共同体にお届けいたします。皆様のご協力をお願いいたします。

(ハラスメント防止対応委員会<sup>※</sup>)

※昨年9月の教区委員会改編により委員会名が変更になっています。

新潟教会 馬小屋（大聖堂内）



### 2026年 新潟教区会議・集会等日程 (2026年1月1日現在)

○顧問会日程		
3月30日（月）13：15～		新潟司教館
6月2日（火）		司祭の集い会場
9月7日（月）～9月8日（火）		新潟司教館
11月24日（火）13：15～		新潟司教館
(東京教会管区代表者会議 7月7日（火）～7月8日（水） 担当 横浜教区)		

### ○司祭会議・司祭の集い等日程

司祭評議会	3月30日（月）15：30～3月31日（火）昼食	新潟司教館
聖香油ミサ	3月31日（火）10：00	司教座聖堂
司祭の集い	6月1日（月）～6月3日（水）	山形県内で開催
宣教司牧評議会	11月3日（火）祝日10：00～15：00	新潟教会センター2F
司祭評議会	11月24日（火）15：30～11月25日（水）昼食	新潟司教館

### ○集会等

日本カトリック幼保連盟 全国大会	7月28日（火）～7月29日（水）	朱鷺メッセ
さいたま教区・新潟教区合同黙想会	9月14日（月）～9月18日（金）	中軽井沢
米沢殉教祭	10月11日（日）	